2026 年　4 月　10 日

研究休暇報告書

南山大学長　殿

所　属　　人文学部

職氏名　　教授　黒澤浩

受入研究機関等：南山大学、長野県飯田市、下伊那郡豊丘村、同天龍村、上伊那郡中川村等

期間：2025 年 9 月 16 日～2026 年 3 月 15 日
目的：弥生時代前期から中期における、天竜川を通じた東海地方と下伊那地方との交流実態の解明と、それによる文化変容のプロセスを明らかにすることを目的とする。そのために当該時期の土器の分析に主眼をおき、当該期資料の再確認・再整理作業を行う。

また、併せて現在申請中の科学研究費基盤研究（A)「博物館・美術館の多様化と共生を目指して－ユニバーサル・ミュージアム化の研究ー」の研究分担者として、博物館学研究を進める。

研究休暇においては二つの研究課題を設定した。一つは考古学の研究で、弥生時代前期における東海地方と南信地方との交流の実態を、土器の移動、模倣、変容の分析を通じて明らかにすることであり、もう一つは、博物館研究として誰もが楽しめる博物館（＝ユニバーサル。ミュージアム）の理論と実践の結合に関するものであった。

考古学の研究では、西尾市所在の江尻遺跡出土土器の再整理作業と下伊那郡豊丘村所在の林里遺跡出土土器の再整理作業を継続し、いずれも研究休暇期間中に作業を終了した。江尻遺跡については資料の再整理報告を作成し、西尾市教育委員会に提出済である。また、林里遺跡の再整理もこの期間中に終了し、今年度前半期には報告を作成するよう準備を進めている。併せて、飯田市周辺の縄文時代晩期から弥生時代前期の資料を閲覧し、報告作成の準備とした。これらと同時進行で進めてきた上伊那郡中川村所在の苅谷原遺跡出土土器の整理作業についても終了し、中川村歴史民俗資料館から再整理報告が刊行され、またリニューアルした歴史民俗資料館のオープニング特別展として、当該遺跡出土資料を公開し、さらに地元住民および長野県在住の研究者を対象としたシンポジウムまでもが開催された。

江尻遺跡・林里遺跡・苅谷原遺跡は、本研究休暇での研究課題とした弥生時代前期の東海地方と南信地方との交流を明らかにする基礎資料であり、それらをまとめることができた

ことは、成果として強調しておきたい。ただし、本研究休暇中に着手する予定だった下伊那郡天龍村所在の満島南遺跡の資料調査について、所蔵者との連絡がうまくいかず、今後に持ち越されたことは残念であった。

二つ目のユニバーサル・ミュージアムに関する研究は、科研が通らなかったために、当初の目的に沿った研究を進めることはできなかった。しかし、全国大学博物館学講座協議会（全博協）からの助成を受け、人類学博物館において「「さわる展示」を活用した多感覚鑑賞プログラムの企画と試行」というテーマでの共同研究（共同研究者：島絵里子・梅村綾子・』鈴木康二）を主宰したことは、大きな成果となった。本研究ではさわることが主たる知覚の方法となる視覚障害者と晴眼の学生・大学院生とが一緒になって触察しながら展示鑑賞をすることで、視覚だけによる展示鑑賞に対してどのような影響が視覚障害者・晴眼者双方に起こり得るのかを定性的なデータに基づいて考察しようというものである。地味な研究ではあるが、こうしたことの積み重ねが、博物館において資料をさわることの意義を共有していける基盤になるものと考えている。なお、本研究に関する中間報告は共著論文として発表されているが（共著者は共同研究者に同じ）、今後分析をさらに進めていく予定である。